

○質疑（三好委員） エイズウイルスの検査ということで、先日来、報道がなされておりますけれども、献血された血液がエイズウイルスに感染しており、日赤の検査をすり抜けて 2 人に輸血されまして、そのうちの 1 人が感染してしまったという事件についてお伺いしたいと思います。

今回の件では、献血者はことしの 2 月と 11 月の 2 回にわたって献血しておりますけれども、その際、感染リスクのある性的接触があったにもかかわらず、問診ではそのことを隠していたということで、エイズに感染したかどうか確認するための検査目的で献血したのではないかという疑いも報道されているところであります。

虚偽申請や虚偽報告があってはならないことでもありますし、人々の善意で成り立つ献血というすばらしい制度を踏みにじる無責任な行動でありますから、決して許されることがあってはならないと思います。行政としても再発防止に向けた積極的な取り組みが必要だと思っております。

献血の際の血液検査の結果であります。献血者に通知してくれるということは広く知られているところでありますけれども、エイズ検査については、保健所などで匿名・無料で受けられるということもあったり、また、これを誇張しますとエイズ検査目的での献血がふえるというようなこともあったりして、献血者への通知項目には入っていないというふうに承知しております。このことは、日赤のホームページを見ましてもはっきりと掲載されております。

今回の献血者は、エイズの陽性反応が出たら教えてくれるのではないかという期待もあったのかもしれませんが、献血の際に、エイズ検査の結果は通知されないということ、また、問診の際の虚偽申告が大ききリスクにつながるということ、あわせて、空白の期間と言われているようですが、実際にウイルスに感染しても検出不能とされる期間が約 1 カ月程度あって、やはりエイズの検査は専門の検査機関で実施されなければならないということをもっと丁寧に説明していたならば、今回、献血を思いとどまったり、また違った展開となった可能性もあるのではないかと考えるわけであります。

そこで、まず、本県の日赤では、献血の際にこうした説明について、特にエイズ検査については、献血においては結果を通知しないということをちゃんと説明しているのかどうか、その辺のことについてお伺いしたいと思います。

○答弁（薬務課長） 献血時の検査結果の通知についての御質問ですが、広島県赤十字血液センターに確認しましたところ、献血する際には 3 回ほど献血者にアプローチいたしまして、そのうち 2 回ほど検査結果の通知については周知しております。

最初に、献血前に問診を行います。問診票を書いていただき、受付に提出していただきます。その際にエイズの検査目的ではないこと、感染リスクのある性的接触がなかったかについて質問し、該当する場合はもちろん献血をお断りしておりますが、その際同時に、検査結果につきましては、B 型、C 型肝炎検査、梅毒検査、HTLV 検査結果に異常があった場合についてのみ通知しますということを確認しているということでございます。もう 1 回は、問診が終わりまして後にお伺いというチラシを配付しております。検査目的の献血はし

ないでくださいということと、検査結果の通知の項目にはエイズはありませんということとを周知徹底しているということです。最後に、3回目ですが、献血の前にエイズ感染のリスク行為があった場合は、後からでもいいですから日赤のほうに御連絡ください、申告してくださいというチラシを献血された後に再度配っているという状況でございました。

今回の事案は、初期段階の感染であるとウイルスを検出できないという、今の技術の限界を突きつけたような形となっております。今後もエイズの検査結果は通知しないということの周知徹底を図るとともに、これから実施を予定しておりますクリスマス献血キャンペーンとか、はたちの献血キャンペーンなどの活動、また、市町の献血推進協議会を通じまして、献血者の意識の向上を図り、これまで以上に献血者の方に責任ある献血をお願いしてまいります。

○要望・質疑（三好委員） 承知いたしました。周知徹底しているという話でありましたけれども、実際こういうことが起こっているわけでありますので、より一層工夫していただきたいと思います。日赤では、今後、献血の際に、問診に当たる医師がエイズ感染のリスクのある患者を見分けられるような訓練を行う予定であるということも言われておりますけれども、それを待たずとも、できることがたくさんあると思いますので、日赤と十分協議しながら、県としてもリスク回避をしっかりと考えていただきたいと思います。

折しも12月1日、3日前は世界エイズデーということで、その直前に今回のような事件が起こったわけでありまして、何かしら日本への警鐘のような思いもするわけであります。現在では薬の開発が進んでおりますので、エイズに感染しても発症を抑えられるようになったり、また、感染予防の啓発活動も行われたことで、新たな感染者、また発症者については、世界的に見ると減っているそうではありますが、日本では実は横ばいという状況であるというふうにお伺いしております。エイズ感染のリスクがあるようなことをしておいて、検査を受けない人が多いのではないかとことを思うわけでありますが、日本の感染者や発症者が減らない原因をどのように考えておられるのか、御意見を伺いたしたいと思います。

○答弁（健康対策課長） ただいまの質問で、世界の感染者が減っているのに日本では横ばいで推移しているのはなぜかということでございますけれども、エイズの15歳から45歳までの世界の感染率は、現在約1%でございます。先進国ではアメリカが0.6%、フランス、イタリアが0.4%、イギリスが0.3%、ドイツが0.1%に対し、我が国は0.03%の低い比率を保っております。しかしながら、委員御指摘のとおり、昭和60年の国内初の感染者の発見以来、平成20年までは新規感染者が一貫してふえ続けております。そして、現在、年に1,500人程度という形で横ばいで推移し、累計数も2万人を超えたことにつきましては、憂慮すべきことであるというふうには考えております。

一方、この間、1987年に初のHIV治療薬が開発されて以来、治療薬の進歩は著しく、現在では、HIVに感染しても治療薬を1日1回内服することでエイズの発症を抑えられ、日

常生活を通常どおり送られるようになってまいりました。このことが逆に、エイズを死の病として恐怖していたころと異なって、危機感が薄れているのではないかというふうに考えております。

○質疑（三好委員） 状況はわかりました。今回の件のようにエイズに感染した血液が輸血されるようなことを防ぐためには、最初に質問いたしましたように、献血の際に水際作戦を徹底するということがとにかく重要だろうと思っておりますけれども、匿名・無料検査の件数につきましても減少傾向にあるというふうに伺っております。

一方で、自分で採血して送付する民間の検査というのもあるようでありますけれども、これは数千円かかるキットのようではありますが、この検査については、実はふえているということをお聞きしております。また、感染したことに気づかなくて、発症してから気づく、いきなりエイズと言うそうですけれども、こういうものもふえているということでもあります。

そう考えますと、やはり匿名・無料検査を受けにくい環境、もしくは受けづらいという抵抗感のようなものがやはり根強くあるのではないかと思いますけれども、これは大変重要な、いい制度でありますから、匿名・無料検査の受検の促進や、エイズに関する正しい知識の普及啓発に、より一層力を入れて取り組んでいくことが重要だろうと思っておりますけれども、この辺のことについて、どういうふうに取り組んでいかれるのか、お伺いしたいと思います。

○答弁（健康対策課長） 委員御指摘のとおり、HIV感染の蔓延を防止するためには、血液の水際対策と感染者の絶対数をふやさないという対策が重要でございます。治療ができるようになった今日的な課題として、早期発見、早期治療が最も重要であるというふうに認識しております。

平成24年度末までの広島県のHIVの認定数は、現在243名で、感染率は0.01%と非常に低い状況を保っております。しかし、ここ最近の動向では、平成19年から現在に至るまで、年に20人から30人のペースで新規発症患者が発生しており、特に憂慮すべきは、先ほど委員の御指摘もありましたが、いきなりエイズという、発見時に既にエイズを発症している患者の増加でございます。そのため、本県では、平成25年3月に、エイズ対策の徹底を図るため、広島県エイズ対策推進プランを策定いたしました。この計画では、「いきなりエイズ」ゼロ作戦というキャッチフレーズのもと、相談・検査体制の充実を計画の柱に据えております。

平成23年度の本県の保健所での相談件数は6,630件で、人口10万人比で見ると全国第2位の相談体制です。検査件数は2,986件で、人口10万人比で見ると全国第7位の実績でございます。また、保健所で発見された陽性者には、告知時に医師以外にも臨床心理士を派遣して、陽性者に対して心理カウンセリングを行い、確実に拠点病院への受診につなげるなどのきめ細やかな対応を行っております。この体制を充実させていくことが重要であると

考えております。また、相談や検査を受けやすいように、土曜日、日曜日にも相談窓口を開設し、県立病院等の協力のもと、日曜夕方の検査も実施しております。また、そのような内容を、特に感染が憂慮される若者が集まる学園祭や、とうかさんなどの取り組みで普及啓発すると同時に、街頭キャンペーンを実施するなど、普及啓発に努めております。今週の7日も、ちょうどレッドリボンキャンペーンを広島市と共同してアリスガーデンで実施し、その際にも近隣の医療機関と共同して無料検査のイベントを実施してまいります。

今後もエイズに対する正しい知識の普及啓発、相談・検査体制の充実、医療提供体制の充実、人材の育成を図り、広島県のエイズ対策の推進に努めてまいりたいと考えております。

○要望（三好委員） 今回の事件も、やはり間違った認識というところが一番の根底にあるのだらうと思いますので、まずはエイズの検査体制を含めて、しっかりとわかりやすく優しく誘導できるような、いい方法を考えていただきたいと思います。

ひいては、献血という大変すばらしい、みんなの善意で成り立っている制度をちゃんと守っていかないといけない中で、余りぎちぎちにすると、献血したいという人が減ってもいけませんし、そうはいつでも、このことはちゃんと守っていただかないと、根底の問題でありますので、その辺のことをしっかりと考えていただきまして、いい制度になるように、また頑張ってくださいと思います。